

くろしおいっしょにあそぼう通信

『くろしお』いっしょにあそぼう通信は、高知県東部地域と徳島県南部地域に暮らす人たちが主催する青少年向け体験活動事業を集めた情報誌です。この情報誌の特徴は、様々な団体が主催する事業を1つの情報誌に取りまとめ、参加申込の手続きを事務局がすべて行ったところです。

1. むろと黒潮・体験の風をおこそう運動とは

むろと黒潮・体験の風をおこそう運動は、平成29年度に実行委員会（事務局：国立室戸青少年自然の家）を発足しました。高知県東部地域と徳島県南部地域の青少年教育に関する17団体が連携し、青少年の体験活動の重要性を広く家庭や社会に発信するとともに、青少年を対象とした様々な体験活動の機会を提供しております。

今年度は、平成30年10月から12月までの期間に行われる青少年向け体験活動事業の情報誌を作成し配布するとともに、鯨舟競漕大会やジオパークに関する事業など、地域に根ざした事業を実施しました。

2. 『くろしお』いっしょにあそぼう通信

『くろしお』いっしょにあそぼう通信を作成するにあたり、参考にしたのは、島根県三瓶地域協育ネットワーク（事務局：国立三瓶青少年交流の家）が作成している「いわみん体験の風をおこそう特別号」という情報誌でした。高知県東部地域と徳島県南部地域は、島根県三瓶地域と同じように自然が豊かで青少年人口の少ない地域であるので、この情報誌は参考になると考えたからです。また、このような情報誌を作成し配布することによって、高知県東部地域と徳島県南部地域の方々が青少年のための事業に積極的に取り組んでいただき、地域を活性化してもらえないかと考えたからです。

『くろしお』いっしょにあそぼう通信の作成と配布、参加申込を受け付けるなどの業務を行うにあたって、次の3点に留意しました。

1点目は、幅広い年齢層や体験活動事業に参加したことがないような親子が参加したくなるような情報誌にすることです。事業の内容だけでなく、指導者の紹介を記載するとともに、参加対象や参加費を明確に掲載しました。また、事業は地域の食の魅力に目を向けたものを取り入れてみました。

2点目は作成した情報誌の配布場所の工夫です。むろと黒潮・体験の風をおこそう実行委員会のメンバーの力を借りることにより、人が多く訪れる観光案内所や道の駅などに情報誌をおいていただきました。また、小学校には高知県のいの町以東、徳島県南部は阿南市、海部郡及び勝浦郡に配布しました。

3点目は参加申込を受け付ける業務についてです。掲載されている事業の主催者の中には家族経営のお店や漁師の方など、体験イベントを実施したことがない方もいました。そこで、事業を実施する際



に最も煩雑となる受付業務を事務局である国立室戸青少年自然の家が行うことにしました。専用の「Web お申込みフォーム」を作成し受付を行いました。このことによって、はじめて事業を実施する方にとっては、運営に関する負担を軽減することができたと思います。

なお、参加者が少ない事業については、実行委員会のメンバー事務局である国立室戸青少年自然の家のネットワークを使って参加を呼びかけたりもしました。このような取り組みにより、今回『くろしお』いっしょにあそぼう通信に掲載されたすべての事業は、参加者が集まり順調に終わることができました。

3. 成果と課題

今回、「地元漁師と親子釣り大会&鯉のタタキ作り」という事業を漁師さんが実施しました。20名の親子が参加しました。事業を主催した漁師さんは、「こんなにたくさんの方々が参加してくれるとは思っていなかった」と驚きの声をあげていました。事業に参加した保護者からは「釣れた時の子供の顔が今年一番だった。」「また参加したい。」などの声もあり、とても良い評価を得ました。

一方で、この広報誌の趣旨に賛同し連携していただけたような高知県東部地域と徳島県南部地域の12団体に声掛けを行いました。すべての団体が賛同してくれたわけではありませんでした。最終的には7団体8事業の掲載となりました。この情報誌を継続していくことによって、少しずつ実績を作っていきたいと思います。

最後になりますが、『くろしお』いっしょにあそぼう通信を作成することによって、地域の方々が青少年のために事業を行うということが身近になってくれればと考えております。また、このことによって地域の青少年の体験活動の機会が増えてほしいと願っております。